

経営比較分析表（令和5年度決算）

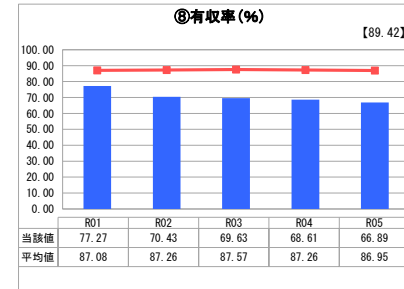
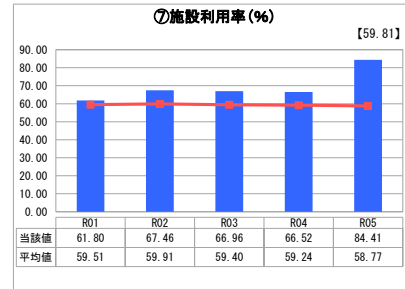
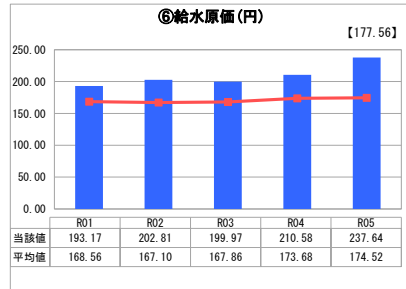
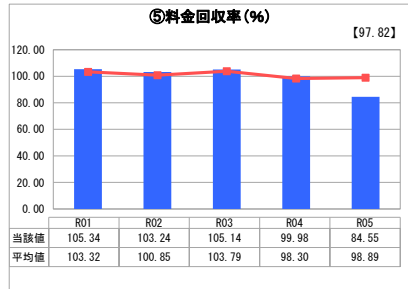
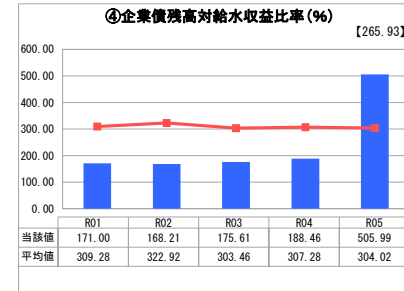
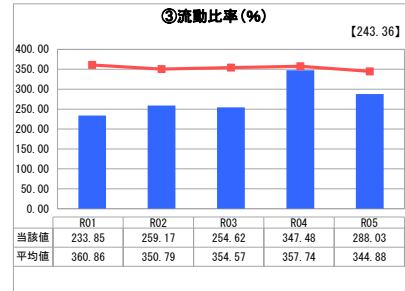
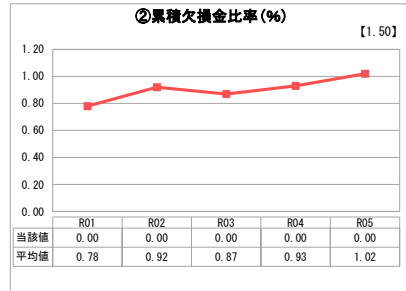
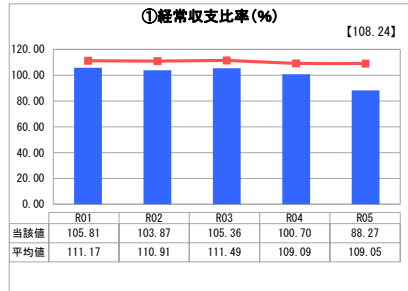
福岡県 田川広域水道企業団

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|--------|--------------------------------|--------|
| 法適用 | 水道事業 | 末端給水事業 | A4 | その他 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 1か月20m ³ 当たり客産料金(円) | |
| - | 80.95 | 97.08 | 4,459 | |

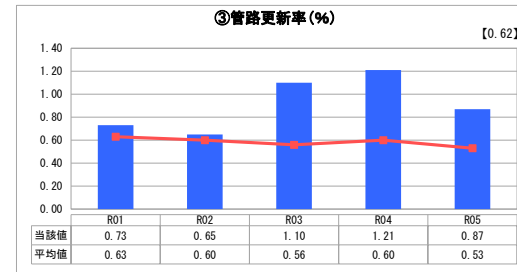
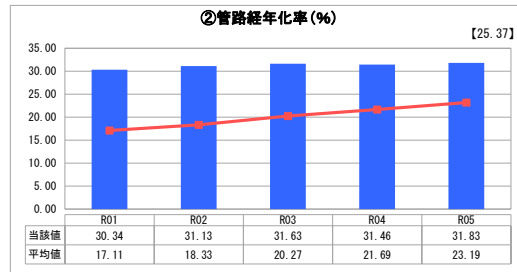
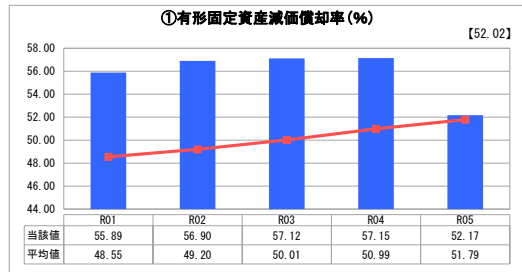
| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|-----------|--------------------------|----------------------------|
| - | - | - |
| 現在給水人口(人) | 給水区域面積(km ²) | 給水人口密度(人/km ²) |
| 86,997 | 90.53 | 960.97 |

| グラフ凡例 |
|----------------|
| ■ 当該団体値(当該値) |
| — 類似団体平均値(平均値) |
| 【】 令和5年度全国平均 |

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
管路更新等による固定資産除却に伴う資産減耗費の増及び労務単価、資材費等の物価高騰による維持管理費の増等による費用の増により、単年度赤字を示す100%未満であり、類似団体平均を下回っている。

②累積欠損比率
累積欠損金は発生していない。

③流動比率
短期的な支払能力があることを示す100%を超えているが、類似団体平均を下回っている。

④企業債残高対給水収益比率
事業統合に伴う新浄水場建設等により企業債残高が増したことから、比率については大きく上昇している。

⑤料金回収率・⑥給水原価
料金回収率が減少した要因は、給水原価の上昇に伴うもので、主たる原因は管路更新等による固定資産除却に伴う資産減耗費の増及び労務単価、資材費等の物価高騰による維持管理費の増が給水原価を上昇させていると考えられる。

⑦施設利用率
全国平均値や類似団体平均値に比べ高い状況であり、効率的に施設が利用されているといえる。今後も事業統合のスケールメリットを活かし効率的な施設の利用に努める。

⑧有収率
全国平均値、類似団体平均値に比較して大きく下回っている。国の交付金を活用して行っている運営基盤強化等事業において、老朽管の更新を進め改善に努める。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率・②管路経年化率
いずれも類似団体平均値を上回っており、老朽化が進んでいる状況である。

③管路更新率
全国平均値、類似団体平均値をわずかに上回っている。今後も管路更新計画に基づき、国の交付金を活用して行っている運営基盤強化等事業により計画的な管路更新を行っていく。

全体総括

平成31年4月1日に1企業団の用水供給事業及び4市町の末端給水事業について経営の一体化を行い、令和5年4月1日に事業の統合及び料金改定を行った。

今後、給水人口の減少に伴う厳しい経営状況となることが予測されることに加え、老朽化の進んだ施設の更新等、多額の費用を要する更新事業に対し、国の交付金制度の活用など、事業統合のメリットを生かして、「健全な事業経営の継続」と「住民負担の増加の抑制」を図り、効率的かつ安定的な水道事業の経営を進めていく。